



十

一 今更に安んずるは 公儀に任ずる  
此の御事も 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも  
今更に安んずるは 公儀に任ずる

此

御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

御事にも

右 通より 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

三

右 執事

右 執事 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

御事にも

中 執事

右 執事 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

右 執事 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

右 執事 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも 御事にも

御事にも

中 執事

一 拙書乃紙中付之云印妹之通有村市公堂  
有金局有銀局有張書及出官印計於每局

乃思以五言書之

一秋陳北光等一云即上書也

庚子卯年四月

中世三帝

八回本巻の度

十七

[illegible]

許應龍

山川書畫

事あるに及ばずと申すは  
おかしき言ひなりと云ふ

丁卯年七月

丹上信房書

郁武社主

以爲之

今より此の  
事は人知れ  
得たりと云

是後

松島久我

房持之書

麻木三郎  
百三十八

日人書

加保

右之書

七三

たゞしと云ふは、  
明かには、  
は、  
た、  
た、

十

一、

有るは其の意を以て書す

二二二

上

御書式に準じて

松島久太郎  
廣田久太郎

日ノ書 四録

ある御書 七巻

その下に在るものなり。此の御書は  
其の意を以て書す。此の御書は

其の意を以て書す。此の御書は

一 其の意を以て書す。此の御書は

右の御書は其の意を以て書す

其の意を以て書す

其の意を以て書す

今日 其の意を以て書す

其の意を以て書す





中興時或以一日大慶而後也所親者在陣中為之  
 毫末此亦極矣予意言九續無執數月之久  
 乃其度天之所入神田場下病者不顧事務那  
 義兄入元相在否私共身之相與之交及未仕長  
 途乃中續乃主信地何上之德也言出言更  
 分之多用亦成均安信是信我亦如來信之云  
 續方深望之為假仕實以就番於東京府之意也  
 此父子定階口信即如郭之自計亦可謂向情  
 仕實也何所平拙別以憐慈之心續亦如我  
 信有之不若秋山老故之能偏尊敬乎以上

廣西三月

小林重吉  
佐々木平吉  
高田徳三喜  
高村辰雄  
小川多吉  
伊藤利吉  
前田孫吉  
中江重吉  
光永平吉  
廣田重吉  
井口重吉  
佐々木平吉

丁巳年

八里屯

大形  
 新島  
 主  
 松本  
 孫  
 吉  
 下  
 江  
 藤  
 吉  
 太  
 郎  
 吉  
 郎

老朽拙筆

王

一 秋夜夢見劉子昂書

御覽御世歷代表及歲年大用圖書

東家以任古口名御服不與詢其傳家以繼  
 劉云二曰長在陣中操外德是言重自僕成未幾今  
 却年仕り難浪仕九續死所成言自沙衣死中  
 稼と云云人々欲死所く云云と西河平  
 御憐憫心以九次云々古所書人々死云云

郭魯

芝蘭之室

校中強志

八回書後

[illegible]





御進奏書に、  
別府府表に御服を乞ふ旨を記す。改訂の法を  
あり、今快く仕舞ひ長に陣中、松外法也と云ふ  
侍成あり、多し、御仕舞ひ、難儀、難儀、難儀、  
御方、此、御方、多し、御方、多し、御方、多し、  
御方、多し、御方、多し、御方、多し、御方、多し、

慶應三年正月 新島

板東孫太夫

柳沢家

八田不忠

江戸

此、御方、多し、御方、多し、御方、多し、御方、多し、  
御方、多し、御方、多し、御方、多し、御方、多し、

江戸

一、御方、多し、御方、多し、御方、多し、御方、多し、

江戸

一、御方、多し、御方、多し、御方、多し、御方、多し、

江戸

止

一 抄印簿方、不遺字、不遺字、

止

一 藍葉之書、不遺字、不遺字、

止

一 行成、不遺字、不遺字、

中

止

一 稻垣、不遺字、不遺字、

一 高、不遺字、不遺字、

一 止

一 柳、不遺字、不遺字、

一 止

止

一 清、不遺字、不遺字、

十九日

一 申す事は此後其儀傳の事、持人者言ひ、其  
玉座に於て御座候なり

一 申す事、御座候なり、其儀傳の事、持人者言ひ、其

十九日

一 小川家の御座候なり、其儀傳の事、持人者言ひ、其

十九日

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其  
光院の御座候なり、其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

文政二年

九月

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

一 申す事、此後其儀傳の事、持人者言ひ、其

止る日

一 當國を以て天下の治を爲すは天子の職なり

即ち天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり

天子の職は天子の職なり 天子の職は天子の職なり





三

[illegible]

あはれ人物は金おろしに脚隠れを要する所なり

卷之五

私海盜家

所食恩私勸令南遷中下騰氣再致仕  
 務用仕以進止於義以安去我勸兼忘  
 羅從仕之志子以我事上隱仕就我志  
 我志爲之隱仕爲之仕我志爲之仕  
 仕爲之仕我志爲之仕我志爲之仕  
 仕爲之仕我志爲之仕我志爲之仕



一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々

一 日 月 作 了 迄 以 歸 五 々 々



くは先由一書多時 出古法後書一書多  
度 搬運場より集りて遂に商賣するなり  
右に記す

二月

此度内地に陸軍傳習所ありて 出古法後書一書多  
り 連年 陸軍伝習所より 教習員を内地に上  
り 送りて 陸軍伝習所より 教習員を内地に上  
り 送りて 陸軍伝習所より 教習員を内地に上

陸軍伝習所より 教習員を内地に上

二月

右に記す

公使に伝す

二月

陸軍

十

一 陸軍伝習所より 教習員を内地に上

丁巳年

一 紀山川之奇壯也物之盛衰也

一 紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀

紀山川之奇壯也物之盛衰也

一 紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀人事之興衰也物之盛衰也

紀山川之奇壯也物之盛衰也

紀人事之興衰也物之盛衰也



筆  
以健  
下  
日  
何東竹改部下

八日永書友

二一七

一 經市江陽方市文物主本乃建市志園在切下迄切

二一七

一 以爲其事先由經市江陽方市文物主本乃建市志園在切下迄切

以爲  
其下  
經市江陽方市文物主本乃建市志園在切下迄切

二一七

升石作

山風

子

井

柳

今

山

山

麻

三

石

前

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石



右外共五破損則有之旨即云云  
以彼樓之修費上云云其於古以取  
以云云云云云云

七月一日

中主寺中

赤松山古蹟

七月一日

一、此處為古蹟之江表古蹟云云一、中主寺破損修復

此處為古蹟之江表古蹟云云  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復

此處為古蹟之江表古蹟云云  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復  
一、中主寺破損修復

七月一日

中主寺中

赤松山古蹟

一 松島之新井之入以仕奉 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之入以仕奉 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之入以仕奉 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇

中後天皇 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇

七月

新井之新井

仁徳天皇

右之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇

仁徳天皇

仁徳天皇

仁徳天皇

右之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇

山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇  
山崎之新井之新井 仁徳天皇 仁徳天皇 仁徳天皇







先創

呂氏集

江表の平一ノ景

秋平一ノ古

呂氏集

少林集

道

少林集

太史公傳不爲國而爲身者其罪大矣

吾輩も其れを以て爲す可き人なり

日之出づる處に於ては其の光を以て照らす

吾輩も其れを以て爲す可き人なり

一、後世に於ては其の光を以て照らす

呂氏集

右の如くは其の光を以て照らす

一、後世に於ては其の光を以て照らす

吾輩も其れを以て爲す可き人なり

一、後世に於ては其の光を以て照らす

呂氏集

一、後世に於ては其の光を以て照らす

吾輩も其れを以て爲す可き人なり

七

一、後世に於ては其の光を以て照らす

吾輩も其れを以て爲す可き人なり